

今年の4月から2ヶ月の短期留学をパリのネッカー病院でさせていただきました。臨床と創薬研究に慌ただしく過ごしながらも、学位取得や小児循環器専門医取得を経て、次のキャリアを考えた際に出た結論が、外に出て自身の研究の幅を広げることでした。必然的に国内留学の次は海外留学に視野が向き、再度研究へスイッチを切り変える前のタイミングで交換留学に応募しました。

ネッカー病院はフランス革命前からある世界最古の小児病院ですが、革新的な医療を隣にある Institute Imagine (有名なパスツール研究所も隣にあります) と共同で開発し、基礎研究からの橋渡し成果を臨床にフィードバックしています。世界的に有名なハイボリュームセンターを率いる Bonnet 教授が長年かけて作り上げたネッカーハートチームには多くの特色があります。病院4階は循環器分野のためにあり、一般病床に加え、手術室・カテ室とその隣に ICU を備えており、ワンフロアで診療が完結可能となっています。同フロアにある医局も循環器内科はもちろん、外科、産科、新生児科が横並びになっており、カンファレンスを含め、常にコミュニケーションが取れる体制です。循環器診療は非常に細分化しており、潤沢なマンパワーを生かして研究から臨床までのシステム化が進んでいました。心臓移植も盛んに行われており、Dr.Kraiche の心筋症外来は大変勉強になりました。また教授の許可を得て、Imagine に留学中の Dr.Yasmine に様々な研究者を紹介してもらい、ラボミーティングなどにも積極的に参加しました。

ネッカーの先生方と一緒にセビアでの AEPC 総会を楽しむつもりでしたが、タイミング悪くグラント面接で東京に呼び戻されることになったのは残念でした。幸いにも、来年からは英国で研究できる機会に繋がったことをメールすると、自分のことのように喜んでもらったのが印象的でした。医療を含め、フランスの文化を肌で感じることができ、間違いなく今後の仕事に影響を与えてくれるきっかけとなりました。ありがとうございました。

Bonnet 教授



病棟回診



AEPC- JSPCCS 交換留学報告

埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科 小島 拓朗

この度、2019年3月18日から5月31日まで、英国バーミンガム小児病院 (BCH)で研修する機会を頂きました。私にとっては初めての海外留学であり、現地での生活に若干の不安もありました。しかし、BCH のスタッフの方々は非常に親切であり、また現地での生活も快適で、充実した研修生活を送る事ができました。

私自身は、元々カテーテルインターベンションに興味を持っていた事から、BCH ではなく多くのカテーテルインターベンションを見学したいと思っておりました。BCH は、年間カテーテル件数550件、年間手術件数600件という、英国でも最大規模の小児病院です。今回、約2ヶ月の滞在期間中に70例以上のカテーテルを見学する事ができましたが、インターベンションのみならず基本的な作法までもが日本とは異なり、非常に印象的でした。ご指導頂いた Oliver Stumper 先生は、Interventionalist としてだけでなく、教育者としても素晴らしい先生で、インターベンションの理論から tips and tricks に至るまで、多くを学ぶ事ができました。また、毎日のカンファレンスにも参加させて頂き、さらに外来や病棟を見学させて頂く事で、英国の医療事情や日本との違いを知る事もできました。

留学中には、スペインのセビリアでの AEPC にも参加させて頂きました。現地では、同僚の先生方とアパートの一室を借りて寝食を共にし、大変貴重な経験となりました。

休日には、ロンドンやバーミンガム近郊を観光したり、サッカーを観戦したり、同僚の先生宅でのパーティに参加したりと、非常に楽しい時間を過ごす事ができました。

今回、BCH で研修させて頂いた事で、小児循環器に対する新たな知見を得るのみならず、英国という国を知り、新たな友人と出会い、また外から日本を見る事ができ、大変貴重な経験をさせて頂けたと思います。このような機会を下さった、日本小児循環器学会および AEPC に心よりお礼申し上げます。



AEPC 短期交換留学レポート Motol Hospital

宮城県立こども病院 心臓血管外科

正木 直樹

私は 2019 年 6 月より 6 週間、日本小児循環器学会と Association of European Pediatric Cardiology(AEPC)との若手研究者短期交換派遣プログラムでチェコのプラハにある Motol Hospital で研修する機会をいただきました。Motol 病院はチャールズ大学の 5 つあるうちの第 2 附属病院であり、小児医療に特化した施設を併設する非常に大きな病院です。チェコは施設の集約化が非常に進んでおり、小児心臓血管外科手術が施行できる施設は国内で Motol 病院のみとなっております。そのためチェコ全土より患者が集まり、年間約 500 例と多くの心臓手術が行われております。心臓血管外科は現在レジデントがおらず 6 名の attending surgeon によりこれら手術を行っております。手術内容も多岐に渡り、心臓移植(年間 5 例程度)を含めあらゆる心臓手術を行っております。日々の研修のスケジュールとしては連日朝のカンファランスから始まり、その後手術見学という流れでした。カンファランスは全てチェコ語で行われており非常に活発なディスカッションが行われておりました。詳細までは残念ながら理解しえない部分もありましたが、若手の先生方が英語で通訳してくださり、大まかなディスカッションの内容や日々の出来事など理解することが出来ました。また、手術の際は英語で説明していただくことができ、質問にも丁寧にお答えいただきました。連日複数の手術を経験することができ、特に左心系疾患が日本より多く、自施設では経験する機会が少ない congenital AS に対する Ross-Konno 手術や Valvuloplasty なども複数経験することができ、非常に勉強になりました。

プラハでの滞在は、病院横に併設されている Motol Accomodation というビジネスホテル様の施設を利用させていただきました。病院や駅などにも非常にアクセスが良く、快適に過ごすことが出来ました。病院はプラハの郊外に位置しておりましたが、週末はプラハ市内を訪れ、歴史的建造物や芸術に触れ、プラハの歴史など理解を深めることができました。中世時代に建てられた赤い屋根が一面に広がる街並みは非常に壮観でした。

最後になりますが、今回このような素晴らしい機会を与えてくださった日本小児循環器学会、AEPC、自身を受け入れてくださった Motol 病院、自身を快く留学に送り出してくださった宮城県立こども病院の先生方に深く感謝申し上げます。

